

製品名: UHRF1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM81782**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2b
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	89.8kDa

抗原情報

遺伝子名	UHRF1
別名	Np95; hNP95; ICBP90; RNF106; TDRD22; hUHRF1; huNp95
遺伝子 ID	29128.0
SwissProt ID	Q96T88
免疫原	大腸菌で発現したヒト UHRF1 (AA: 616-755) の精製された組み換え断片。

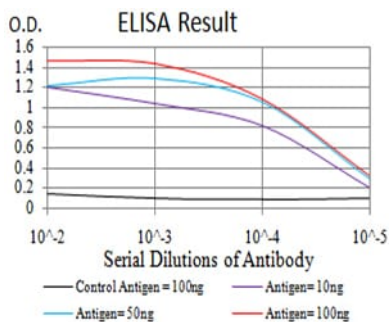
背景

この遺伝子は、RING フィンガー型 E3 ユビキチンリガーゼのサブファミリーに属するタンパク質をコードしています。このタンパク質は特定の DNA 配列に結合し、ヒストン脱アセチル化酵素をリクルートすることで遺伝子発現を制御します。発現は細胞周期の G1

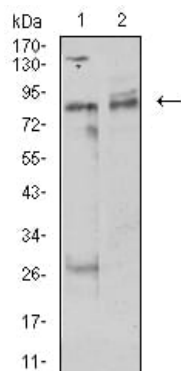
期後期にピークに達し、G2期およびM期を通して持続します。トポイソメラーゼ II α および網膜芽細胞腫遺伝子の発現を制御することでG1/S期移行に主要な役割を果たし、p53依存性DNA損傷チェックポイントにおいても機能します。エピジェネティック情報の統合におけるハブタンパク質と考えられています。この遺伝子は様々な癌で発現が亢進していることから、治療標的となると考えられています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが見つっています。関連する擬似遺伝子が12番染色体上に存在する。

研究分野

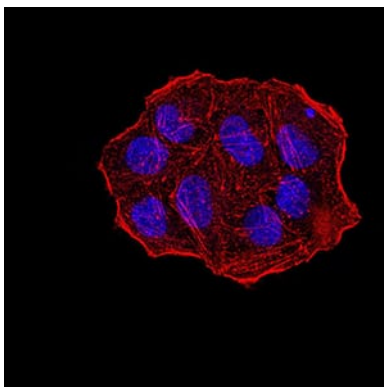
画像データ



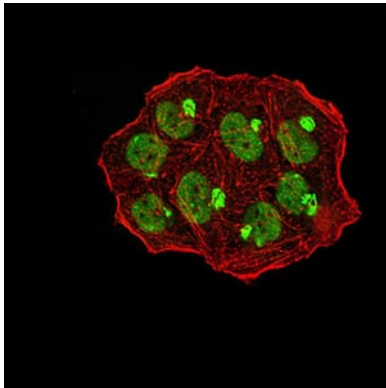
黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



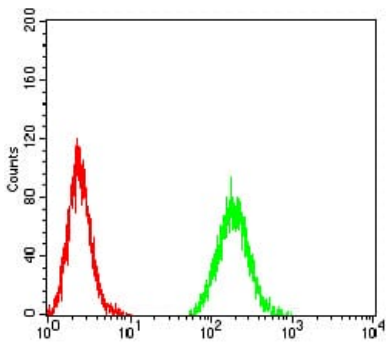
MCF-7 (1) および HeLa (2) 細胞溶解物に対する UHRF1 マウス mAb を使用したウェスタンブロット分析。



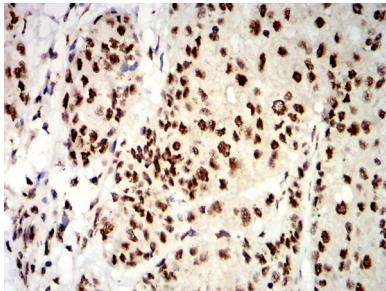
UHRF1 マウス mAb を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識したアクチンフィラメント。



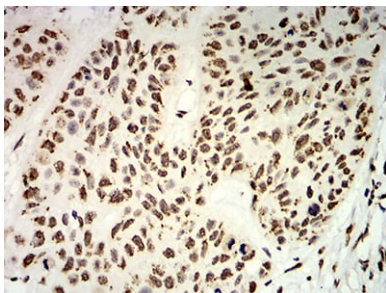
UHRF1 マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



UHRF1 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した MCF-7 細胞のフローサイトメトリー分析。



UHRF1 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト膀胱癌組織の免疫組織化学分析。



UHRF1 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト食道癌組織の免疫組織化学分析。